



巻頭言

宮城県石巻市渡波農地提供者 亀山 繁

宮城県石巻市は江戸時代より米どころとして名前が知られてきた。ちや「ササニシキ」「ひとめぼれ」のおいしいコメは全国から引き合いがきちやや。東日本大震災で、田んぼには串刺しのように乗用車がなだれ込んだものね。2011年から神戸国際支縁機構の若者たちが岩村義雄会長に引き連れられてボランティアで毎月のようにやってきたでがす。

素人に農業はとうていできないと思っていましたけど、決してあきらめない熱意には負けちゃ。幼稚園児たちに、機械をいわずに田植え、稲刈り、脱穀、天日干しなどに取り組むように教育する姿には打たれた。根岸で、一番肥沃な田んぼにしてしまわれ、孫もお世話になり、くも膜下出血で入院の時、見舞にぎりすべ。いづのまにか家族のような関係だつちや。農家に後継者がいないさ。機構に来てけらいん、と願うだつちや。すでにこころのみんな感謝すつべ。

「カヨ子基金」で通学

海外の孤児のために、1年でも、2年でも、里親になってください。

ネパール国MCH(Maharaj Children Home) マナハリ・チルドレン・ホームが完成。5人の孤児が生活を始めた。2015年4月25日に阪神・淡路大震災を上回る規模の大地震がネパールを襲いました。神戸国際支縁機構は、5月12日から現地入り。ダルマスタデイ、パンガ、マナハリなどで傾聴ボランティアがないため、テレビ放



マナハリ・チルドレン・ホームの子ども達 2017年6月25日

映もされました。その時に会ったネパール人のアデッシュ・スィング氏(36歳)はヘダウダ市マナハリに孤児が多いものの施設がなく、貧しい子どもたちが共に生活し、食事をし、学校へも行けるようにしたいとヴィジョンを熱く語られました。機構には財政的に施設を作る余裕はありませんでした。南太平洋のバヌアツ国ポートビラ市で依頼されている児童養護施設をネパールでも可能かどうか、日本に持ち帰ることにしました。すると全国から応援する声がありました。建設に必要な100万円はすぐには集まりませんでした。大学生の村田義人君(第61次、第2次ネパール)、植地亮太君(第42次、丹波水害、ネパール、ベトナム)は二度目の訪問に参加しました。ダルマスタデイのハリ・マハラジャン氏(36歳)や、パンガのジャナク・ラル・マハルジャン(36歳)のそれぞれ違った被災地からも孤児のために日本からの支縁を嘆願されました。



パールの3か所で、少なくとも500万円の資金が必要になります。クラウドファンディングの1000万円(実質82万円)が満たされたりして、5か所で建造する運びとなりました。2016年1月4日、岩村カヨ子夫人が腎臓癌手術、在宅ホスピスの中、骨に浸潤した激痛を耐えながら、10月17日に逝去されました。会長にとり、二人三脚でボランティア活動をしてきた同士、戦友、協力者でした。機構の若者たちに大きな感化を与えて、育ててくれた存在でした。遺志を受け継ぎ、立ち上がる学生たちは2016年11月に水害の被害が大きかったベトナムのクアンビン省を訪問しました。現地でもテレビ報道されました。兵庫県井戸敏三知事、神戸市久元喜造市長も新書を託してくださいました。そこでもベトナムでも孤児たちの世話を懇願されました。すでに35人が「カヨ子基金」の恩恵を受けています。毎月3千円の自動引き落としもできます。詳しくは、「カヨ子基金」事務所へ。現地では、もっと多くの孤児が、「あなたの家族に加えてください」と願っています。

ヤマザキ
世界のパン
ヤマザキ

Otsuka
株式会社 大塚製薬工場
〒772-8601
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115
TEL 088-685-1151(代表)

MiYOSHi
ミヨシ石鹸株式会社
〒130-0021
東京都墨田区緑3-8-12
TEL 03-3634-1341

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA
竹中工務店
〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13
〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1

九州北部豪雨

会長 岩村 義雄

阪神・淡路大震災のボランティア元年から22年、様々な災害現場で思わぜられることがあります。総点検し、見直し、改善することがあります。

(1) 現場では感情移入
a. 規則すくめ

日本人は、一般に、資格がないとなにもさせない四角定規に考える民族と言います。資格、学歴、能力は最前線の現場では無用です。ボランティアは社会全体の制度を決め、運営に貢献するものではありません。制度を支えるエネルギーを提供するので

ボランティアは外見上、目立たないように縁の下で力持ちとわきまえます。

たとえ骨折している重症の人がいれば、すぐに応急手当が必要です。しかし、なによりも大切な事は何か必要かという視点です。家、家族、財産を失った方に、新築の家、養子などの新しい家族、配偶者、金塊などは、だれもすぐさま与えることができません。一番、緊急性が求められるのは、絶望のどん底にいる人を励ます言葉、柔和な微笑み、やさしい声です。助け合う関係、コミュニティ、隣人とのつながりがあつてこそ、生きる希望につながります。病院の集中治療室でよしんば手術が成功しても、身寄り、友達、帰る家があれば孤独感でさいなまれ、失望から立ち直れません。

「救出」について、ルールより、いのちの通った関係について考えます。たとえば、救急車は現場に直行する際、高速道路でもスピード制限を守りません。「いのち」を優先するからです。

b ボランティアの受け入れ体制

被災地に行きますと、ボラセン(ボランティアセンター)、社協(社会福祉協議会)、危機管理課が細かい規則で、ボランティアを押さえ込む傾向が強いです。次に、ボランティア申込み者が増えきまると、管理できなくなり、2014年8月16日の丹波水害の時でも、まだ必要が大きいにもかかわらず、ボラセンが受け入れを断ります。せつかく、遠方から時間、体力、交通費を用いてやってきたボランティアを追い返すのです。とほとと帰途につかざるを得ないたくさんのボランティアに石巻、丹波、熊本の現場でお出合いました。そんな志がある方と、一緒に活動してきました。たとえハンディキャッ



福岡県朝倉市杷木松末正信 2017年7月7日

プ、後期高齢者、備えを有していても、やる気があれば、現場では大いに貢献することができます。土砂の下敷きになり骨折、打撲、心臓痛みのある人には、ボランティアのボ

ランティアの方が感情移入をなさり、ふさわしいのです。有能な人より、はるかに功を奏することについて役所の机の上ではわかりません。エリート、効率、能率の視点では到底の被災者の気持ちなど咀嚼できません。自然災害の対応は、筋書通りに解決できることは少ないのです。

新米のメディア記者は、避難所の窓口にいる役所の人に、犠牲者数、行方不明者数など、質問します。現場に足を運ばず、窓口の行政の説明を聞いて、被災状況を把握したように勘違いしています。そこでストーリーを作り上げ、被災者の体験を添えて、記事の体裁をつくりあげます。つまり、住民を見守る行政の仕打ちを見破ることができないのです。現象だけで、物の真実を洞察する力のない画一的な記事になります。全国新聞にしても活字離れの時代、交通費、宿泊費、取材実費も削られ、遠隔地からの即席の記事に終始します。共同通信に右へならえの見出し、編集、画像です。2017年3月11日、東日本大震災から6年目、視聴率が低ければ、もはやテレビ局も復旧、復興、再建が遅々としていく被災地報道番組について取り消します。句が過ぎればだれも見向きもしなくなるという理由で報道しない責任を問わないのは悲劇の序章です。

c ボランティアと役所の棲み分け

通例、役所の人たちは、食料、電気系統、上下水道などの復旧には適役です。一方、避難所、在宅被災者、現場で、被災者と直接コミュニケーションをとるのはボランティアの方がはるかにまきつていきます。したがって、被災地では、活動の棲み分けが求められます。現場の被災者にはボランティア、防災士、医



療者が接するようにします。ボラセンなど役所は、地域の連絡、情報の伝達、分配に専念し、ボランティアを補佐するような構図にシフトすべきです。活動の棲み分けにより、被災者のうめき、悲しみ、怒りを共有し、有機的に助け合うことができます。

2015年、鬼怒川水害の際、日光市の役所の方たちは他の被災地とは異なっていました。ボランティアに命ずる構図はありませんでした。ボランティアに被災現場の状況を説明し、地図や、行き先、必要人数を一緒に相談し、どうすべきか協議して、面白い方法を委ねる低姿勢な態度が貫かれていました。上意下達ではなく、ボランティアに難局の解決を委ねる空気がありました。調整役に徹底しておられました。ボランティアは迅速な行動で現場に急行することができました。つまり役所は、被災現場の住民の苦しみをよく理解し、何が必要か心得ておられたのです。「オレたちが何もかも可る」「仕切る」「命令する」という空気はありませんでした。心ある行政は、被災者を決して「忘れた」存在にしないものです。安心して、ボランティアは作業終了後、「後ろ姿でつこり」の感謝の心で立ち去ることができました。

- 1 拙稿「支援」No.11(神戸国際支援機構 2015年 3頁)。
- 2 同No.10 同 2015年 3頁。
- 3 丹波水害ボランティア
- 4 第2次東北ボランティア報告
<http://kiskobe.sub.jp/event/25/>
- 5 第56次東北ボランティア報告
<http://kiskobe.sub.jp/event/8066/>

法律相談初回無料。
お気軽にご相談下さい。

シャローム総合法律事務所

みや なか たし まつ やす
弁護士 宮永亮史 弁護士 松田康生

〒650-0016 神戸市中央区橋通1-2-14
0120-997-181
TEL 078-351-1325 FAX 078-351-1270

ゴーフル

いいものは時代をこえて
生き続けます

創業明治30年 おかげさまで創業 120年

神戸且月堂

URL <http://www.kobe-fugetsudo.co.jp>

SERVING MANKIND

Humanity First

「ヒューマンティファスト」
日本アハマディア・ムスリム協会

KINSAN 夢に近づく 夢を産み出す...

近畿産業信用組合

総合コールセンター
0120-111-019

(2) 二次災害とボランティア

a. 二次災害

最初に起こった災害に引き続いて、それから派生する別の災害があります。阪神・淡路大震災でも地震後、火災が発生し、6435人の内、火災死者は599人に及びました。避難所で持病が悪化する場合もあります。ライフラインがないため体調を崩すこともあります。被害に遭った人を救助するために向かった消防士、警察官、自衛隊員も被害に遭うことがありました。しかし、ボランティアが向かう場面は基本的に、避難者がおられる安全な場所です。つまり最前線の危険な地帯に向かうことより、避難、救助された安全地帯で活動します。

現場で、ボランティアが多すぎて、救出に邪魔と考える人は被災現場を知らないからです。山あいの滑落、土石流の決壊、道路の寸断などの危険地帯にはだれも入ることはできません。他の地域からのボランティアも近寄れません。地元の精通した人たちが、けもの道などを知らないからです。二次災害を恐れる必要はありません。自分の不明家族を捜索するのは、地元の消防団などです。逃げ遅れた生存者を見だし、救出できるのは地元の地理に精通している者しかできません。いきなり自衛隊が投入されても、発見できないものです。6年経った今でも、東日本大震災の行方不明者は捜索され続けています。

b. 食中毒

二次災害を恐れるあまり、「食中毒」を予防して炊き出しをさせない発想はあまりにも近視眼的です。炊き出しのためにサルモネラ・腸炎菌ばかり病原性大腸菌などにかかるというのは宝くじで一等賞に当たる確率と同じです。火を通して炊き出しをします。つまり、生ものではなくりますから、食中毒にかかりません。基本的に、学校の文化祭などで、生徒たちが焼きそばなど提供する際、保健所の許可を得るのと同じように、炊き出しも許可を得てするぐらいのマナーは徹底しています。熊本・大分地震から1年経つ



朝倉市寒水 道が川となる 7月17日

た7月26日、熊本県全域に食中毒注意報が発令されました。炊き出しとは無縁です。猛暑の影響です。ノロウイルスによる食中毒は季節に関係なく、生活排水によるものです。あさり、牡蠣、海苔に被害が及び、日本各地で昨年末から出荷停止になりました。ボランティアが問題なのではなく、人間そのもののエゴがもたらした災厄です。食中毒を恐れるあまり、ボランティアによる炊き出し禁止は、被災者の生きる喜びなどにセンサーが働いていない証明です。

c. 被災地の犯罪

次に、「盗難」について被災地では厳重な警戒をします。全国からボランティアなどよそ者が押し寄せるから安全について脅かされるというまことしやかな思い込みがあります。コンビニのレジ類持ち出し、銀行や会社の金庫、豪邸の扉などは重機(コンボ)がなければ打ち破り、搬出はできません。自然災害で幹線道路が通行不能なのに重機に乗って他府県からやってくることは不可能です。地元の人たちしか知りえない情報が盗難に関係していることを見逃してはなりません。宮城県石巻市渡波でも、2011年3月に訪問した時、金融関係の被害は、他の地域からではないことを西光寺の樋口伸生(無量寿庵住職)副住職から耳にしました。ちなみに東北自動車道などは当時、緊急車両しか通行が許されていませんでした。神戸国際支縁機構は兵庫県警察署から許可書を得て、目立つように車輛に貼っていました。一般道にしても土砂をかなり、通行不能でした。

まちがった常識として、秩序正しく配給を受け取る被災者など、マスコミが作り上げた神話は独り歩きしています。奇妙なことに、日本人は被災地で暴動が起きないことを誇らしげに思っています。海外へ行きますと、日本人はモラルが高いですね、と言われると筆者は複雑な心境にならざるをえません。日本の被災現場に何度も足を踏み入れ、メディアのウソがわかっていきますから、本音と建前前の日本人の短所について、顔が赤らみます。宮城県石巻市に70数回訪問して、確信するようになったことがあります。盗難、レイプ、破壊などはボランティアによってもたらされるものではありません。もちろん絶対ないとは確言できませんけれど、ボランティアがどこまでまじめな犯罪に関係しているとは聞いたことがありません。ゴーストタウンになった石巻市魚町に数軒の全壊の家がありました。2015年まで、玄関付近に津波で変色した硬貨などが散乱していました。解体されるまで、だれも

硬貨をもつていたりしてはいませんでした。神戸からのボランティアは、「ここにも500円玉がいくつもありますね」と言うもののだれも盗つたりしませんでした。福島県富岡町でも、盗難に入られるのは近隣でも有名な裕福な家だけと、地元の吉田信住職が言われました。つまりその地域に居住していなければ、金目のものをだれが隠して持っているかわからないものです。軒並みに盗人は押し入っていないことから他府県からのボランティアの仕業でないことも明瞭です。

次号に続く

6 二次災害「大辞林」(三省堂編修所第三版2006年)。兵庫県企画県民部災害対策局災害対策課「阪神・淡路大震災の被害確定について」(2006年5月19日消防庁確定)。

8 RKK熊本放送 7月26日。

9 「生活排水などに混入したウイルスが海に流失し、カキに蓄積した可能性がある」「読売新聞」(2016年12月22日付)。ノロウイルスの感染が全国的に拡大しているようです。各地で餅つき大会が(保健所の勧めで)中止になる。「朝日新聞」(2016年12月28日付)。

10 拙稿「支縁」No.5(神戸国際支縁機構2013年3頁)。



新執筆

阿部捷一先生に代わって連載「むかしむかし」を担当することになった阿部和夫です。よろしくお願いいたします。

※石巻は世界につながる不思議な場所です。支倉常長をはじめ、若宮丸、フランク・安田、ハワイ移民のリーダー・牧野富三郎等が居ます。

阿部和夫氏プロフィール

1938年石巻市生まれ。東北大学卒業。歴代校長を歴任。前任者阿部捷一先生と同じ職場で勤務。1999年石巻市教育長。2008年榎本武揚没後100年記念帆船あこがれ運航石巻実行委員長。2011年映画「宮城からの報告」子ども・学校・地域製作委員会代表。2013年石巻芸術文化振興財団理事長。

執筆論文「仙台湾における品替御百姓に関する一考察」(1969年)、「日本歴史地名大系 宮城の地名」(共 平凡社1987年)、「石巻の歴史 第2巻、第4巻」(共 石巻市1989年)、「宝暦年間における仙台湾・漁村の様相」(共 鹿嶋郡網地浜の飢饉と海難と) (2000年)、「目で見える石巻・桃生・牡鹿の100年」(共 郷土出版社2000年発)、「東日本大震災における近世村落的崩壊」(石巻市雄勝地区の場合) (2012年) など著書多数。



TAMANOHADA

代表取締役 三木 晴雄

〒130-0021 東京都墨田区緑 3-8-12
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124
URL: www.tamanohada.co.jp

(株)吉原金属

神戸市北区道場町塩田2082

不動産 売買・賃貸・管理・店舗は

本田商会

〒662-0051 西宮市羽衣町5-23

電話: 0798-38-7560

FAX: 0798-38-7561

お気軽にご相談ください。

(有)吉田興業

神戸市兵庫区湊町1-1



《毎週木曜日の東遊園地（神戸市役所隣）の炊き出し（楠元留美子班長）、耕支縁（神戸市西区友清 岸本豊〔第11、19次、丹波水害〕隊長）は割愛》

前号からの神戸国際支縁機構の歩み

代表 村上 裕隆

- 7月27日(木) 九州北部ボランティア報告
村上裕隆 西福寺。
- 7月26日(金) 理事会出席者 岩村義雄、水垣渉、白方誠彌、
村田充八、勝村弘也、五百井正浩、楠元留美子。
- 7月16日(日)～19日(水) 第2次 九州北部ボランティア
参加者 岩村義雄、村上裕隆、本田寿久、大島健二郎、
藤丸秀浄、片山忠明、村上安世。
- 7月7日(金) 午後4時半～ 福岡県朝倉市の現場から中継 ラジオ
関西558KHz 番組「時間です!古田編集長」に。
- 7月7日(金)～9日(日) 第1次九州北部ボランティア
福岡県朝倉市杷木中学校
体育館の夕食提供
- 左から大島健二郎、村上裕隆、岩村義雄、樋口由紀枝、
フオントラン、樋口愛、石川博一、樋口舞 7月8日
- 6月22日(木) 午前10時～ 宮城県石巻市 お話し 岩村義雄
「てんでんこによる直後と今」
開北会館 105名
『石巻かほく』(2017年6月27日付)で
報道。



木村ふさ子さんからの感謝の絵葉書

- 6月18日(日)～21日(水) 第75次東北ボランティア
保田ぼかし(無農薬、有機による乳酸菌こやし)
- 6月14日(火) 宮城学院女子大学で講演
「石の叫びに敏感になろう」
780名
- 6月5日(月)～10日(土) 第1次イタリアボランティア
アマトリーチェ、ラクイラ訪問



- アマトリーチェSergio Pirozzi市長から感謝状
- 6月2日(金) 「カヨ子基金」神戸新聞などに掲載
- 5月26日(金) 西宮西福寺で藤丸秀浄(法専寺)住職(第39、42、48、50、53、
60、63、67、第2次九州北部ボランティア参加)東北ボランティア体験語る



- 万石浦幼稚園園児、トロトロ層づくり、田植え体験。地元メディア3紙が報道。
- 5月21日(日)～24日(水) 第74次東北ボランティア
田植えに園児参加
- 5月8日(月)～13日(土) 第5次ネパール
マナハリ・チルドレン・ホーム開所式



平澤久紀氏(左) 2度目の参加

講座などの案内

●本田哲郎セミナー

毎週第3金曜日 午前10時～正午
神戸市勤労会館 404号室

●ボランティア道の母 岩村カヨ子を偲ぶ

10月17日(火) 午後1時半～2時半
会場：狩口地域センター 大ホール

(一社)神戸国際支縁機構

●ボランティアや移住者募集中

毎月、被災地へ赴きます。農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。医療関係者歓迎します。詳細はホームページ。

●被災地への支援物資もお願いします。

●年会費をお願いします。

会員(年度4月～翌3月)の皆さまには、季刊誌などをお送ります。 事務局長 本田 寿久

編集後記

熊本・大分地震による爪痕は益城町惣領に一年を経てもまだ残っています。九州北部豪雨があり、7月7日に、神戸からの本隊と合流しました。福岡県朝倉市杷木中学校における計11回の炊き出しに参加させていただきました。避難者は温かい汁ものを喜ばれました。体育館の中での不慣れた避難生活、家族や、家、財産を無くされ、行くあてがありません。地獄のような濁流に飲み込まれすべてを失われました。被害の大きい朝倉市の松木や寒水などの地区における大量の土砂と流木に埋め尽くされた水害の恐ろしさを目の当たりにしました。全国からの支縁の必要性を痛感します。 大島 健二郎



熊本県上益城郡益城町惣領
2017年7月25日撮影

救援金、維持会費で感謝します。(敬称略)

2017年4月23日～7月22日

岩村義雄、神戸国際キリスト教会、菊池則子、坂本好也、河内常男、宮本要太郎、本田哲郎、新免貢、島蘭進、宮坂信章、神納茂子、千田豊穂(宮城県石巻市光厳寺住職)、今井祝雄、原田洋子、森一郎、坂井良行(高野山真言宗西院住職)、春重祺子、飛田雄一、酒井彰、酒井久美子、藤丸秀浄(法専寺住職)(2)、「小さくされた人々のための福音」講座(3)、森本修三(丹波)、鍋島隆、坂牧ゆずる、櫻井由里子、森川南、神戸聖福教会(2)、李敬淑(2)、千葉幸一、三木美保、磯辺基博、有年米子、kiso牧場(2)、中山敬一郎(2)、吉俣正光、鶴崎祥子、ゲーベルひでみ、楠元留美子、永野真治、兵頭晴喜、西上千栄子、菅原志子、大西孝、中田美子、萩本義郎、鈴木敏夫、白瀬小一郎、本田寿久、栗原健、大島修、大島敏子、浜崎照夫、古本純一郎、古本佳世子、鄭恵姫、藤本英樹(3)、岸本豊、大田美智子、柳澤豊、北川禮子、宮城学院女子大学・大学院、的野慶子、木村玉祚、平澤久紀、住吉地区民児協(宮城県石巻市)、都倉久子、左成和朗、福田啓太郎、千葉幸一、豊島睦子、塩屋キリスト教会、中島信光、熊野千秋、石川満澄、石川久子、牛田匡、神戸キリスト教書店、藤本新作、阿部和夫、阿部齊子、日本ナザレン教団小倉教会、吉持志保、西崎京子、土屋雅彦、山野英雄

計432,000円

東遊園地(神戸市役所隣)における炊き出しのため、フードバンク関西、「耕支縁」チーム(神戸市西区友清)の岸本豊〔第11、19次、丹波水害〕代表、山本智也、村上裕隆、山本勝、上原俊基、河合敏行から収穫とれどれのタマネギ、じゃがいもなどを常に提供。

第74次東北ボランティア(5月21日～24日の田植え)では、国内外の子どもたちが喜ぶように鯉のぼりや風船は神戸スミエプロジェクト(栗須哲秀代表)と連携。宮城県石巻市根岸の津田新一は今年も鯉のぼりのため真竹を提供。六次産業〔一次(生産)+二次(加工)+三次(販売)〕の「みやこ」の弁当もボランティア参加者に好評。

「カヨ子基金」

4月23日～7月22日

坂本好也、樋口進、北村恭男、新免貢、宮坂信章、今井祝雄、岩下喜恵子、東瀬バプテスト教会、鶴崎祥子、千葉幸一、永野真治、兵頭晴喜、藤原りつ子、大島敏子、河内常男、ゲーベルひでみ、山田慎一郎、日本ナザレン教団小倉教会、吉持志保。
竹内喜子さまからたくさんの郵便切手が届きました。

九州北部豪雨

救援金2017年7月6日以降

岩村義雄、神戸国際キリスト教会、コジマチズ、土手ゆき子、豊島睦子、塩屋キリスト教会、中島信光、石川満澄、石川久子、匿名、菊池則子、牛田匡、小島美美子、深田明美、紙元順子、下土井さん、村上安世、望月利明、熊野千秋、土屋雅彦、「小さくされた人々のための福音」講座、西崎京子、山野英雄。フードバンク関西、「日進モーターズ」(孫田正浩社長)が機構のハイエースを寛大に点検。7月16日、広島県安芸のサービスエリアで、小島美美子(第21、24、31、35、38次)、深田明美、紙元順子たちからタマネギや袋類の野菜提供が1号車にありました。株小阪商店の小阪修一社長の燃料貸出、東垂水ルーテル教会の山下寛&弘美からのそうめん、河村ひとみ(第62次)、永野真治、西福寺からいろいろな物、感謝します。

現在738,000円

